

平成 25 年 5 月 30 日
(一社) 日本物流団体連合会

第 14 回物流環境大賞 受賞者決定

大賞は、日本通運株式会社

「エネルギー見える化システム NEES (NITTSU ECOLOGY & ECONOMY SYSTEM) を活用した省エネルギーの取組」 に決定

当連合会は、平成 25 年 5 月 23 日(木)、物流環境大賞選考委員会(委員長:伊藤直彦(一社)日本物流団体連合会会長)を開催し、第 14 回「物流環境大賞」の受賞者を別紙の通り、決定致しました。

今回については、物流環境大賞 1 件をはじめ、合計 6 件について表彰することと致しました。

なお、表彰式は平成 25 年 6 月 24 日(月)、第一ホテル東京にて開催される第 23 回通常総会の席上において行われます。

【添付資料】

- 別紙 1 : 第 14 回表彰受賞者の概要
- 別紙 2 : 物流環境大賞について
- 別紙 3 : 第 14 回物流環境大賞選考委員会委員名簿

担当 : (一社) 日本物流団体連合会
事務局 齋藤
TEL : 03-3593-0139

第 14 回表彰受賞者の概要

1. 物流環境大賞 (1 件)

被表彰者：日本通運株式会社

功績事項：エネルギー見える化システム NEES (NITTSU ECOLOGY & ECONOMY SYSTEM) を活用した省エネルギーの取組み

日本通運では、全国に約 2,000 箇所あるエネルギー使用事業所のエネルギー使用量を正確に把握し、全社的に省エネの効果を上げてくことを課題としていた。このため、エネルギー見える化システム NEES を開発して、エネルギー使用データを統一管理し、そのデータを各現場から自由に閲覧できるようにした。NEES データの実績・前年数値等を活用することにより、目標の設定・取組の検証など、省エネルギー活動を PDCA サイクルで行うことが可能となった。このシステムを活用し、全社で削減目標を設け、取組んだ結果、総電力使用量対前年▲3.4% (▲6,538,024KWH)¹を実現した。

2. 物流環境保全活動賞 (1 件)

被表彰者：信越化学工業株式会社 / 日本貨物鉄道株式会社

/ 日本オイルターミナル株式会社 【共同申請】

功績事項：鉄道モーダルシフトによる化成品輸送の効率化

～石油貨車&化成品タンクコンテナ専用列車の誕生による
液体品輸送の新たな可能性～

信越化学工業(群馬事業所)では、原料として大量消費するメタノールを、遠距離からローリー輸送していたが、日々の在庫管理や、危険品の自動車輸送に伴うリスク、環境保全活動の推進といった課題への対応が必要であった。他方、日本貨物鉄道・日本オイルターミナルでは石油輸送列車・油槽所設備の有効活用が課題であった。これらの3社が協働し、各種設備改良・専用タンクコンテナの開発・輸送手順の変更等を行うことにより、①輸送、②保管、③出荷に至る新たな物流システムを構築、鉄道へのモーダルシフトが実現した。この取組により年間 525,000kg の CO2 排出量削減を実現するとともに、化成品輸送の新たな可能性を示した。

3. 物流環境啓蒙賞（1件）

被表彰者：ヤマト運輸株式会社

功績事項：「ネコロジー」を合言葉にした環境保護活動の推進

ヤマト運輸では、その企業理念に基づき、環境保護活動を積極的に推進してきたが、これまで会社が独自に、自社グループで行ってきた環境保護活動を、今後は顧客も含めて、より幅広く実施していくことを目指すことにした。そのような活動に、親しみをもってもらい、参加者をより広げていくために、環境保護に関する活動の理念・指針に「ネコロジー」と名前を付けた。この言葉をヤマト運輸と顧客や地域社会を結ぶ合言葉として活用し、様々な取組を積極的に実施してきた。この取組により全国各地でエコドライブや走行距離削減の取組など、自主的な環境活動が始まり、社外でも、荷主や地元の高校生を巻き込んだ活動が始まっている。

4. 物流環境負荷軽減技術開発賞（1件）

被表彰者：ボックスチャーター株式会社

功績事項：全国各地で環境配慮の「廃材ゼロ」を実現するJITBOXチャーター便リターナブル資材「Fitボード・Fitラック・Fitガード」の開発と流動管理運用

ボックスチャーターは、ロールボックスパレットを活用した輸送サービスを、全国の手運送会社とのフランチャイズシステムで提供している。今回、「簡単に」、「安全で」、「廃材の出ない地球環境に配慮した輸送を」といった顧客の声にこたえるため、リターナブルな梱包素材として「Fitボード・Fitラック・Fitガード」の3種類をヤマト包装技術研究所と共同開発した。これらの資材をボックスチャーター事業参加会社内で流動させて再利用することにより、梱包材の「廃材ゼロ」を可能とした。さらに、従来の木枠梱包と比べ、梱包時間の短縮等によるリードタイムの半減、梱包関連コストの約7割削減を実現した。

5. 物流環境特別賞（2件）

被表彰者：一般社団法人 愛知県トラック協会

功績事項：トラック運送事業者に対する省エネ走行研修等の実施による
エコドライブの啓蒙・普及活動の推進

愛知県トラック協会は、平成9年以来、愛知県域を超えた幅広いトラック運送事業者に対して、階層に応じた省エネ走行研修や、毎年1回の省エネ走行競技会を実施するなど、環境意識の高揚・啓蒙を図る活動を継続的に実施している。また、独自に開発した省エネ運転解析ソフトを用いて、運転者本人に各種運転データをグラフ化して理解させ、フィードバックするなどの工夫を行い、研修前後では10%前後の燃費の改善効果がみられている。昨年までの15年間で受講者数27,915人、延べ参加企業数は4,986社に達した。

被表彰者：プロロジス

功績事項：大型物流施設における環境負荷低減
～これまでの取組とプロロジスパーク座間2での取組～

プロロジスでは、物流施設専門の不動産会社として、全世界で環境に配慮した施設の開発を進めており、我が国においても、地域環境や災害特性を考慮した日本独自の最新環境施策の導入を進めてきた。プロロジスパーク座間2の建設に当たり、今までの取組の中から、太陽光発電・地下水の浄化等この場所に最適なものを選択し、環境負荷低減効果をあげるとともに、緑化により景観に配慮し、敷地内の一部を歩道として地域社会に開放するなど、一般の住民に対する物流施設のイメージアップにも寄与している。CASBEE Sランクⁱⁱを取得した。

ⁱ 平成24年4月～12月の対前年実績

ⁱⁱ CASBEE（建築環境総合性能評価システム）：建築物の環境性能を評価し格付けする手法、省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮等も含めた建物の品質を総合的に評価するシステム。

物流環境大賞について

物流環境大賞は、一般社団法人日本物流団体連合会
が平成12年度より制定致したものであります。

その趣旨は、近年、物流分野においても環境問題への
対応が益々重要となっている現状に鑑みまして、物流
部門において環境保全活動や環境啓蒙活動等の面で
優れた功績を残された団体、企業又は個人を表彰する
制度を設け、もって環境施策の一層の推進を図ること
と致したいというものであります。

毎年、物流環境大賞選考委員会（委員長 伊藤直彦
（一社）日本物流団体連合会会長）で、被表彰者を選考
の上、通常総会において表彰することと致しておりま
す。

第 14 回物流環境大賞選考委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

(選考委員会)

委員長	伊藤 直彦	(一社)日本物流団体連合会会長
副委員長	野尻 俊明	流通経済大学法学部教授
委員	馬場崎 靖	国土交通省総合政策局物流政策課長
	与田 俊和	交通エコロジー・モビリティ財団理事長
	山本 明弘	(株)日通総合研究所物流技術環境部長
	野口 香織	日本物流記者クラブ 代表幹事
	田村 修二	(一社)日本物流団体連合会 物流環境対策委員会委員長
	萩尾 計二	(一社)日本物流団体連合会 人材育成・広報委員会委員長
	大庭 靖雄	(一社)日本物流団体連合会理事長

(予備選考委員会)

委員長	野尻 俊明	流通経済大学法学部教授
委員	山本 明弘	(株)日通総合研究所物流技術環境部長
	野口 香織	日本物流記者クラブ 代表幹事
	大庭 靖雄	(一社)日本物流団体連合会理事長